

⑧

【日本点字制定記念日】

万人のための”点字力“

広瀬浩二郎（ひろせこうじろう）

本館民族文化研究部

「点字制定記念日」に思う

一月一日は「日本点字制定記念日」である。一八九〇年のこの日、東京盲啞学校（現・筑波大学附属視覚特別支援学校）で開かれた点字選定会において教員 石川倉次（一八五九〜一九四四）の提案が採用された。石川の点字は、フランスのルイ・ブライユ（一八〇九〜一八五二）が考案した六点点字（アルファベット）を日本語（五〇音）に翻案する試みだった。日本の点字制定から二二〇年近くが過ぎた今日でも、多少の表記法の変遷はあったものの、基本的に石川が翻案した仮名文字体系の点字が使用されている。一月一日

は、視覚障害者に読み書きの喜びをもたらした点字の意義を再確認する記念日として、きわめて重要だろう。

日本点字制定一〇〇周年の一九九〇年、記念切手が発行され、「点字」視覚障害者用の文字」の市民権が定着した。その影響もあって一九九六年、多くの小学校が採択する四年生の国語教科書（光村図書出版）に大島健甫氏の「手と心で読む」が掲載され、現在に至っている。これは小学生に語りかけるかたちで、中途失明者の大島氏が母親の協力をえて点字を習い覚えた経験を綴った文章である。大島氏の「それまで親しんでいた文字とはなれることは、まるで心のふる

さとを失うように思えたのです」「かじかむ指をあたたためたため、わたしは、何日もかかつて、ようやく一べんの詩を読んだのでした」などの発言は、視覚障害の当事者ならではの思い、「文字」人びとの心を結ぶ道具をもつ感動をよく伝えている。

大島氏の文章は点字の役割、およびそのユーザーである視覚障害者の生活を意識するための教材として有益だろう。「手と心で読む」の延長で点字の体験学習、視覚障害者の生の声を聴く授業をおこなう学校も増えた。僕自身、「手と心で読む」の教育的価値を認める一方、そろそろ「障害者」弱者「点字」特殊な文字」といつ

視覚障害者と無縁だった健常者を巻き込むような啓発活動が興隆することも予想される。点字の奥深さに着目する二世紀のキーワードが「点字力」なのである。以下、ブライユ、そして石川が示した「点字力」の二つの特徴について述べよう。

わずか六個の点の組み合わせでアルファベット・数字・記号、さらには音符や日本語の仮名をあらわすことができるのが点字である。ブライユはフランスの砲兵大尉が創始した暗号「夜の文字」（二点

がかかるので、迅速かつ正確に読み書きできるように点の数を半減し、究極の触覚文字が生まれた。少ない材料から多くを生み出すたたかな創造力が、点字の第一の特徴といえよう。「より少なく」という点字の思考法は、いたずらに選択肢を増やし物質的豊かさのみを追求する現代文明に、強烈な反省を求めるものである。

点字考案以前には、日本でも欧米でも普通文字そのもの、あるいは簡略形を凹凸化する線による浮き出し文字が盲学校で使われていたが、ブライユは触覚に最適な文字として六点点字を発表した。線から点へ。これは当時の盲教育にとって

た固定観念を乗り越える新しい点字論が登場してもいいのではないかと思っている。二〇世紀の点字が弱者への配慮、人びとの優しい心を呼び覚ますバリアフリーの象徴だとするならば、二一世紀の点字は触文化への気づき、五感（人間）の可能性が縦横に発揮される多文化共生社会のシンボルとなりうるのではなからうか。

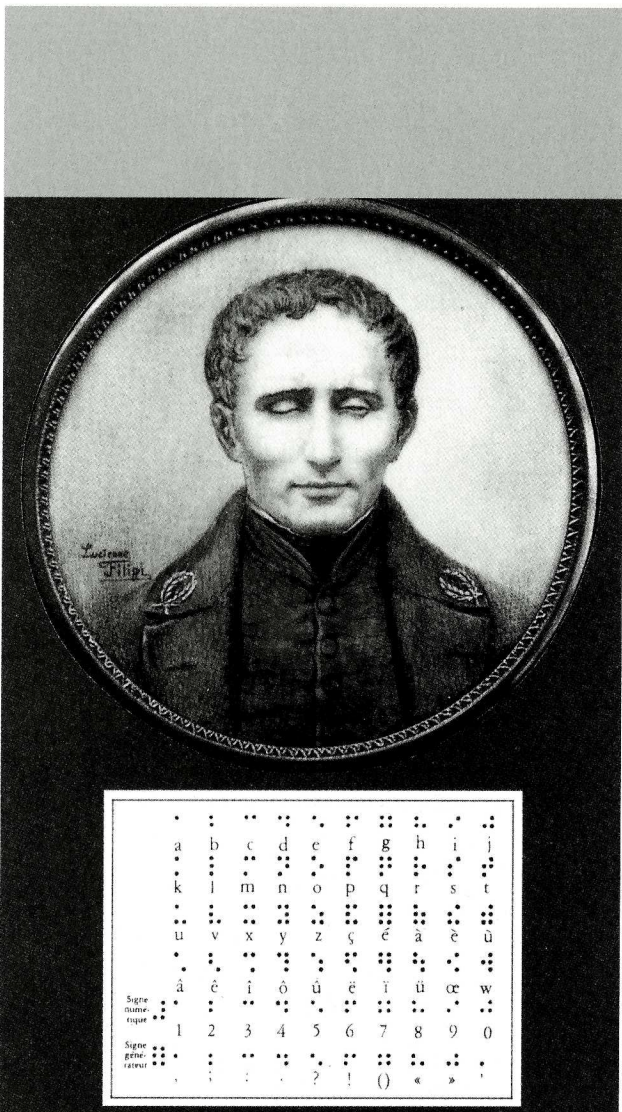
「光の使徒」ブライユ

おりしも二〇〇九年は点字の考案者、ルイ・ブライユの生誕二〇〇年である。世界各地でさまざまな記念行事、巡回展などが計画されている。ブライユ二〇〇

コペルニクスの転回だった。晴眼者との互換性がない文字を用いることへの反対、無理解もあり、点字が公式な文字としてフランスで認められるのは一八五四年、ブライユの死の二年後であった。僕は「文字は線で表現すべきだ」という多数派の論理を打破し、点字の研究に尽力したブライユの熱意にあらためて敬意を表したい。常識にとられないしなやかな発想力が、点字の第二の特徴である。マイノリティの独自性を尊重する点字の柔軟な思想は、混迷が続く現代の教育状況を問い直す示唆を僕たちに与えてくれるに違いない。

あらたな点字論をめざして

したたかな創造力としなやかな発想力。点字に込められたこの二つの精神を「点字力」と名づけ、「点字力」を普及する機会としてブライユ生誕二〇〇年、そして毎年の「日本点字制定記念日」を積極的に活用したいものである。点字とはルイ・ブライユや石川倉次が創出した「手と心で読む」視覚障害者の文字だが、その根底に流れる「点字力」は視覚障害者のみならず、万人が「したたかに、しなやかに生きる」ための手がかりを提示している。さあ、二一世紀のあらたな点字論を確立するために、僕たちの貧弱なる「点字力」を大いに鍛えることにしよう。



ルイ・ブライユは1825年に点字の配列表を完成した（提供：ルイ・ブライユ記念館）